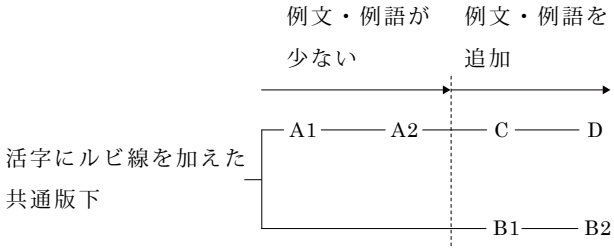
誤植の殿堂『説日語』
――その誕生と変遷（八）

國　分　　建　志

1．はじめに

前稿（國分 2017）では，陝西旅游出版社版『説日語』（陝西版）の正規版と思われる 6 種類のテキストを比較対照することにより，陝西版は下図のように共通の版下に基づき 2 本の流れで改訂がなされたのではないかと結論づけた。これはのちの西北大学出版社版（西北版）にも見られる改訂方法である。



ただし図を見ると，A1 から D へ至る流れでは，初めに例文・例語数の少ない A1，A2 が作られ，のちにそれが C，D という，いわば「増補版」に発展したのに対して，B1 と B2 に関しては A1，A2 のような先行テキストが確認できず，前稿でその存在の可能性には触れたものの，ややアンバランスな印象を拭えなかった。

しかしその後もテキスト収集を続けたところ，新たに正規版と思われるテキストが 2 種類見つかり，後述するように，そのうちの一つが B1，B2 の先行テキストであることが判明した。しかもこのテキストの出現により，前稿の結論についても一部見直さざるをえなくなった。そこで本稿では二つの新出テキストの特徴を明らかにしつつ，それを踏まえて，陝西版の変遷過程についてあらためて考えてみたいと思う。

2. 二つの新出テキストの特徴

新出テキストのうち，B1，B2 の先行テキストと思われるもの（以下 B0 とする）には，既存のテキストとの間に次のような共通点や差異が見られる。

①手書き文字の筆跡や一部の文字の印刷位置などの特徴が B1，B2 とよく一致し，A1 ～ D とは異なる。

② B1，B2 に比べて例文・例語が 19 個少ない。

③ A1，A2 と同じく装丁がややシンプルで，「増補版」（C，D，B1，B2）には見られる裏表紙の ISBN と背表紙の書名 “ 说日语 ” が入っていない。

こうした特徴から，B0 は前稿では未知の存在だった，B1，B2 の先行テキストだと見なすことができる。

次にもう一つの新出テキスト（B3 とする）には以下の特徴が見られた。

①扉と奥付を除けば，ほぼ B2 と一致している[(1)]。

②一方，扉と奥付のレイアウトは B1 にやや似ている。

②について，後掲の画像とともに具体例をいくつか示すと，まず扉に関して B3 と B1 は B0，B2 に比べて “ 说日语 ” のフォントが太く，“ 陕西旅游出版社 ” のサイズがやや小さい。また奥付では B3 と B1 は 1 行目の “012” や 2 行目の “ 周文 ”，3 行目の “ 白全章　徐芳芳　陈云 ” に B0 や B2 とは異なるフォントが使われている。

このように B3 は全体的には B2 とほぼ同じものでありながら，一部に B1 の特徴もうかがえるテキストだと言えよう。

3. 陝西版の変遷過程を再検討する

本稿の冒頭で，前稿の結論の見直しについて言及したが，前稿では B1 と B2 を比較して，B1 の方が先に作られたのではないかと考えた。この結論が正しければ両者に先行する B0 は B2 より B1 に近い姿をしているはずである。ところが実際に検証すると，予想に反する結果が出た。B1 と B2 には，B0 に対して増補された部分を除けば，異同が 12 箇所あるが，これらを B0 の同じ箇所と照合したところ，B0 と B1 は一つも合致せず，逆に B0 と B2 は 11

箇所が一致したのである（なお, 残り 1 箇所は B1, B2 のどちらとも異なる）[2]。

この結果に基づけば，B0 からまず作られたのは B2 の方で，B1 の制作はそれより後だったことになり，前稿の結論と食い違ってしまう。そのため B1 と B2 の関係を洗い直し，その上で新出テキストも加えた四つのテキストの改訂プロセスをあらためて考える必要が出てきたのである。しかし文字や記号などの画線部からこれ以上の手がかりを得るのは難しく，何か別のアプローチを採らなければならない。そこで新たに着目したのが，紙面に付着したインク汚れである。『説日語』は全般的に印刷状態があまり良好ではなく，紙面上に大小，形ともにさまざまなインク汚れがついている。しかもよく見ると，複数のテキストの同じ場所に現れるものが少なからずある。こうした汚れは，テキスト同士の関係が近いほどその数が多くなるのではないだろうか。そうだとすれば，汚れの共有状況を観察することにより，テキスト改訂の流れを再構成できる可能性がある。このような想定のもと，四つのテキストの全ページ（扉～ p.237）を対象に，相互に共通する汚れの数を調べたところ，下表の結果を得た[3]。

B0 & B1	B0 & B2	B0 & B3	B1 & B2	B1 & B3	B2 & B3
120	258	171	191	244	307

※「B0 & B1」とは「B0 と B1 に共通する汚れ」を意味する。

表を見ると B2 と B3 に共通する汚れが 307 個ともっとも多い。両テキストは扉と奥付を除き内容がほぼ重なるので，この数値は当然とも言えるが，あらためて両者の近縁性が裏付けられたことになろう。これに次いで汚れの共有数が多いのは B0 と B2（258 個）で，B0 と B1（120 個）の 2 倍以上あり，B0 の直接の増補版を B2 ではないかとした上記の推論とも矛盾しない。その次に多いのは B1 と B3（244 個）で，その数は B1 と B2（191 個）を上回る。このことから，B2 より B3 の方が B1 と近い関係にあることが分かる。つまり B1 が B2 より後に作られたものだとしても，両者は直接結びつくのではなく，間に B3 が介在していた可能性があり，これは B1 と B3 の扉と奥付のレ

イアウトが似ていることとも符合する。

以上を総合すれば，四つのテキストの改訂プロセスとして B0 → B2 → B3 → B1 という順序を想定するのが，現時点では妥当なのではないかと思う。

4．まとめ

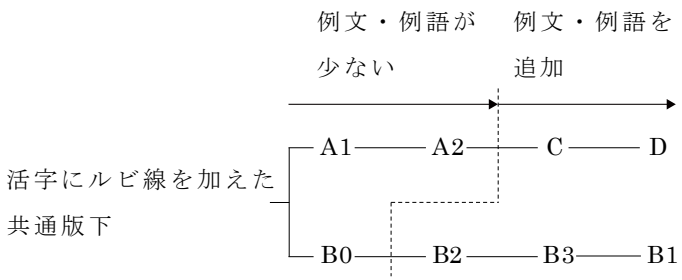
本稿では新たに入手した 2 種類の陝西版（B0，B3）の特徴を探り，その上で前稿でいったん結論づけた陝西版の変遷過程についても再検討を加えたが，その結果，以下の諸点が明らかになった。

①新出テキスト B0 は B1，B2 の先行テキストと見なすことができる。

②前稿では B1 から B2 が作られたと考えたが，両者を B0 と比べると，B1 より B2 の方が B0 に類似していることから，前稿の結論とは逆に，まず B2 が B0 に例文・例語を増補して作られ，B1 の制作はそれより後だったと考えられる。

③もう一つの新出テキスト B3 は扉と奥付のレイアウトが B1 に似ているが，その点を除けば B2 とほぼ一致しており，B1 と B2 双方の特徴がうかがえる。

④上記①～③およびテキスト間に共通するインク汚れのデータから，四者は B0 → B2 → B3 → B1 の順に改訂されたと考えられる。したがって前稿で示した陝西版の改訂の流れを下図のように改める。



注

（1）B3 は p.143 のノンブルのうち「3」だけが手書きされている。

（2）該当箇所のページ数を挙げておく。詳細は前稿の付表を参照のこと。

B0 が B2 と 一 致 す る 箇 所：p.176，177，180，181 × 2 箇 所，184，193，196，204，205，206

B0 が B1，B2 の 双 方 と 異 な る 箇 所：p.170（「 灸 」 の 中 国 語 訳 が B1 では“ 针灸 ”，B2 では“ 针灸 ”であるのに対して，B0 は“ 针炙 ”となっている。なお B0 は A1，A2，C，D と等しい。）

なおこれら以外に増補部分（＝ B0 には例文・例語自体がない）にも，B1 と B2 との間には異同が 3 箇所（p.183，184，198）ある。

（3）インク汚れの調査方法について

①インク汚れは大きさ，形ともさまざまだが，細かな点状のものがもっとも多い。またルーペで拡大してやっと見える微細な汚れも無数にあるが，調査は原則として目視可能なものに限った。

②調査では二つ以上のテキストに共通して現れる汚れの数を数えた。したがって単一のテキストにしか現れない汚れはデータに含まれない。

③汚れの同定には紙面上の位置を基準にしたほか，大きな汚れでは形や向きも考慮した。位置を特定する際には画線部（文字や記号）との距離を目安にしたが，精密に計測したわけではなく，また「のど」付近の汚れのように位置が確認しづらい箇所もあり，作業精度にはおのずと限界がある。

④ごく狭い範囲に密集した複数の汚れを一つと数えた場合もある。

⑤ 2 種類のテキスト，例えば B0 と B1 のあるページに共通の汚れが一つある場合，B0&B1 の値を 1 とした。ただし同じページに共通の汚れが二つ以上あっても，この値は 1 のままとした。

⑦ 4 種類すべてのテキストに共通の汚れがある場合は，すべての組み合わせ（B0&B1，B0&B2，B0&B3，B1&B2，B1&B3，B2&B3）の値を 1 とした。

⑧もし B0，B1，B2 のあるページに共通の汚れがあり，さらに同じページに B0 と B1 だけに共通する汚れもあるような場合は，B0&B1 ＝ 2，B0&B2 ＝ 1，

B1&B2 ＝ 1 とした。

参考文献

國分建志，2017,「誤植の殿堂『説日語』―その誕生と変遷（七）」,『文學藝術』第 41 号，共立女子大学文芸学部，pp.1-17

付記（前稿の補足と訂正）

①前稿 p.9 注（３）において，C の奥付では翻訳者 “ 白全章 ” の “ 白 ” が傾いていると指摘したが，その後 C と同じ内容ながら “ 白 ” が傾いていないテキストを入手した。そこで現時点では “ 白 ” の傾きを C に固有の特徴とは見なさず，両テキストをともに C とする。

②同頁，注（４）で，D と B1 の奥付の違いとして「②出版社の所在地 “ 西安长安路 ” の文字サイズが（D は）B1 より大きい」と指摘したが，再確認したところ印字の濃淡の差によって大きさが違うように見えただけで，実際には同じ大きさと見なすべきだと分かったため，上記の指摘は削除する。

③ p.11 付表中，扉について B0 と B3 も加えて再確認した結果，次のように改める。

・A1，A2，C，B2 は同じ→ A1 と A2 は同じ，C，B0，B2 もほぼ同じ

・D と B1 は同じ→ D と B1 は同じ，B3 は両者に似る

④同頁，奥付について，上記①②も踏まえて次のように改める。

・A1，A2，B2 は同じ，C もほぼ同じ→ A1，A2，C は同じ，B0，B2 もほぼ同じ

・D と B1 はほぼ同じ→ D と B1 はほぼ同じ，B3 は両者に似る

・（備考）C は “ 白全章 ” の “ 白 ” が傾く。D と B1 は印字位置や文字サイズがわずかに異なる

→ D と B1 は印字位置がわずかに異なる

⑤ p.16「どうもありがとうございます。」（p.184）の備考を次のように改める。

・ついで B1 ＝ B →ついで B1 ＝ B2（＝ B3）

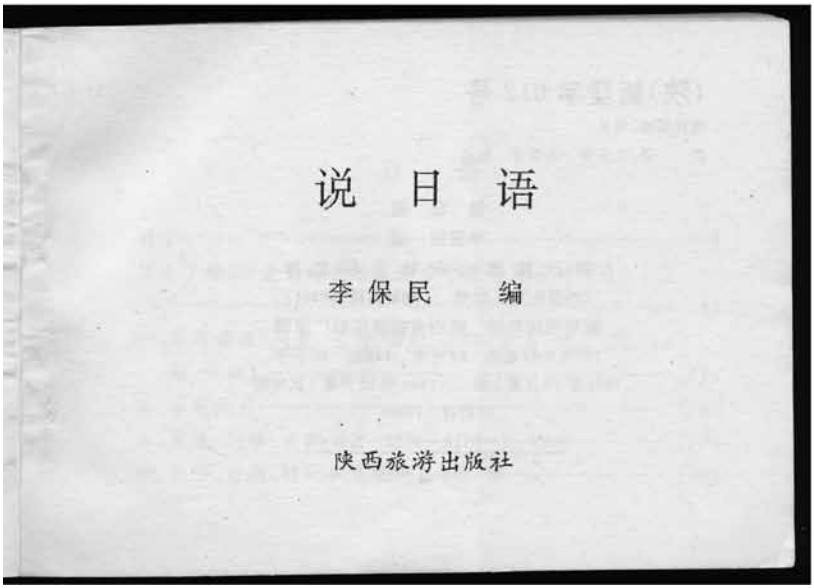
⑥ 6 種類のテキストを見直して新たな異同が見つかったため，B0，B3 との比較も加味して，以下に補足する。

1）p.165「どこか具合でも悪いのですか。」の「悪」の印字位置が A1 ＝ A2 ＝ C ＝ D ／ B1 ＝ B2 となっている。なお B0，B3 の位置も B1，B2 と同じである。

2）p.183「こちらへどうぞ」は，A1，A2 では版面の下段にあったものが，C，D，B1，B2 では例文の追加に伴って中段右側に移されているが，C のみやや右寄りに印刷されている。なお B0 は A1，A2 と同じ位置にあり，B3 は D，B1，B2 と同じ位置にある。

3）B1 のみ p.206 のノンブルが本文に対して傾いている。

B0 扉



B2 扉

说 日 语

李保民 编

陕西旅游出版社

B3 扉

说 日 语

李保民 编

陕西旅游出版社

B1 扉

(陕)新登字 012 号
责任编辑:周文
翻　译:白全章　徐芳芳　陈云

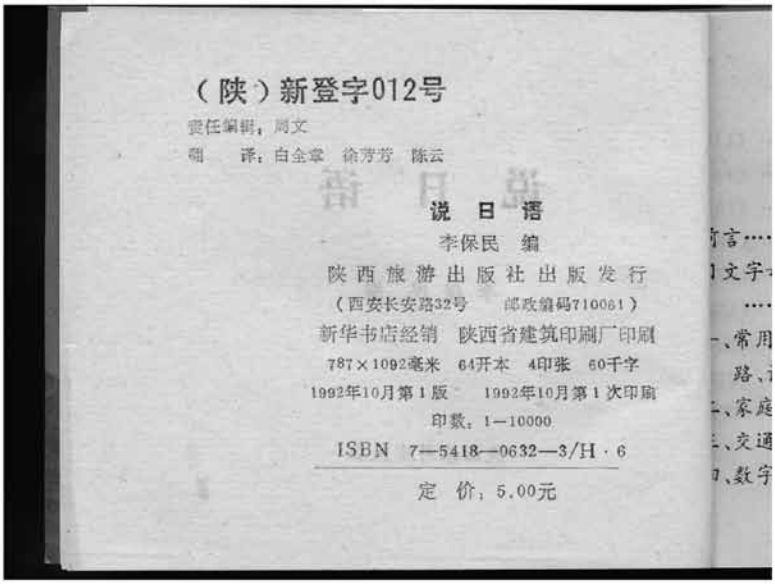
说 日 语
李保民　编
陕 西 旅 游 出 版 社 出 版 发 行
(西安长安路 32 号　邮政编码 710061)
新华书店经销　陕西省建筑印刷厂印刷
787×1092 毫米　64 开本　4 印张　60 千字
1992 年 10 月第 1 版　1992 年 10 月第 1 次印刷
印数:1—10000
ISBN　7—5418—0632—3/H・6
定　价:5.00 元

B0 奥付

(陕)新登字 012 号
责任编辑:周文
翻　译:白全章　徐芳芳　陈云

说 日 语
李保民　编
陕 西 旅 游 出 版 社 出 版 发 行
(西安长安路 32 号　邮政编码 710061)
新华书店经销　陕西省建筑印刷厂印刷
787×1092 毫米　64 开本　4 印张　60 千字
1992 年 10 月第 1 版　1992 年 10 月第 1 次印刷
印数:1—10000
ISBN　7—5418—0632—3/H・6
定　价:5.00 元

B2 奥付



（陕）新登字012号
责任编辑：周文
翻　　译：白全章　徐芳芳　陈云

说　日　语
李保民　编
陕西旅游出版社出版发行
（西安长安路32号　　邮政编码710061）
新华书店经销　陕西省建筑印刷厂印刷
787×1092毫米　64开本　4印张　60千字
1992年10月第1版　　1992年10月第1次印刷
印数：1—10000
ISBN　7—5418—0632—3/H·6
定　价：5.00元

B3 奥付

（陕）新登字012号
责任编辑：周文
翻　　译：白全章　徐芳芳　陈云

说　日　语
李保民　编
陕西旅游出版社出版发行
（西安长安路32号　　邮政编码710061）
新华书店经销　陕西省建筑印刷厂印刷
787×1092毫米　64开本　4印张　60千字
1992年10月第1版　　1992年10月第1次印刷
印数：1—10000
ISBN　7—5418—0632—3/H·6
定　价：5.00元

B1 奥付